第188号
〔発　行〕
平成25年10月27日
〔発行所〕
〒604-0862
京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都商工会議所Ｂ１
京都珠算振興会
☎075(212)6445 075(256)4830

京都 珠算振興会会報

「インド一人旅」

立命館大学経営学部4回生
珠算部　部長　河野　翔太

日印教育支援センター（以下、日印）の話を伺ったのが7月のことでした。

教員採用試験を間近に控えていましたので、その時点では来春にゆっくりと訪問できればと考えました。しかし、採用試験の帰りに決断し、日印の理事長先生にはこの日程（※スケジュール参照）で訪問したいとの返事をしました。これから、訪問まではあっという間に過ぎていきました。

夏のグランプリ・全日本・全大阪という大きな大会の練習をこなしながら、合間には京都の理事長先生宅を伺い、様々な準備を整えていきました。準備の中で、やはりビザ申請は苦労しました。インドは入国にビザが必要です。これまで、海外の経験はあるもののビザが必要な国は初めてでした。結局、大阪のビザセンターまでを3往復しました。また、出発前には新聞社の取材も受けさせていただき、気持ちが高ぶりました。

そして、いよいよ出発当日。関空に着き、手続きを済ませ、関空からまずは上海に飛びました。上海では数時間の乗り換え待ちです。デリー行きを待つ人の中には、数人、日本人を見かけました。空の旅は、エアコンが効き過ぎで、ブランケット一枚では正直足りませんでした。現地時間午前1時頃到着。出国手続きはヒンディー語で話してきますが…。何とかパスし、デリーを案内していただく方と無事合流。空港からホテルへ向かい、この日はホテルに一泊です。

翌朝は、インド門に連れて行っていただき、寝台車の時間まで案内していただいた方の家（寮）で過ごしました。

夕方になり、ニューデリー駅へ向かいました。駅の入り口は電車を待つ人々が寝ころび、足の踏み場がありません。寝台車へ乗車して、これから鉄道10時間強の旅です。電車の中も飛行機と同じくエアコンとの闘いです。闘いはもう一つありそれは、早朝に到着地で降りることができるかどうかです。インドでは、ホームに看板もなく、アナウンスもありません。時間だけが頼りですし、その時間も「だいたい」です。結局は、往復共に特別大きな遅延もなく、予定通りでした。

翌朝ガヤ駅に着き、車でブッダガヤへ移動。ゲストハウスでしばらく休みました。デリーで泊ったホテルよりは、周囲が長閑で、落ち着いて体を休めることができました。扇風機が天井に付いているのですが、それでも暑いです。しかも、途中止まることが何度か…停電です。

暑さに耐えながら、迎えの時間になりました。ブッダガヤ初日の朝食は、「ＦＵＪＩＹＡ」という店に連れて行っていただき、フレンチトーストを注文しました。パン自体は薄いのですが、美味しかったです。店内は扇風機が回っていますが、やはり暑いです。日本で天気を確認したときは雨を心配していたのですが、インドではずっと晴れでした。暑いのにプラスして蚊が飛び回っており辛いです。

朝食を済ませ、指導させていただく学校（カトロア校）へ移動しました。子ども達と先生らが校門から校庭にかけて出迎えてくださっています。「ナマステ・こんにちは」とあいさつをしながら教室へ向かいました。

そして、いよいよ授業です。Ipad、フラッシュ暗算を行った後、進捗度を確認し、見取算（2～3桁）の指導をスタートしました。授業は、片言の英語（いやほとんど日本語）で進めます。現地のＮＰＯ法人スタッフで日本語ができる方に通訳していただき、通じない部分は、大そろばんでカバーします。

授業2日目は、かけ算、わり算の初歩指導になります。この流れを3・4日目にはもう1セット（ギャンカップ校）で行いました。5日目は、先生方への指導をさせていただき、次のステップとして、到達度確認テスト導入の案を提示しました。

2校共に、子ども達の真剣な眼差しに感動し、必死に応えようと頑張りました。皆が皆同じ理解度とはいきませんでしたが、机間指導からは、私の拙い指導でも少しは伝わっているのだとも感じることができました。

○（マル）一つの喜び、隣の子には負けない、もっと応用的なことを学びたいなどという、目標・意欲がどの子ども達からも感じられました。

私がずっと続けてきた「そろばん」を他国の人が同じように学んでいることが嬉しくも感じました。また、とても人懐っこく、元気いっぱいで皆かわいらしい子どもたちでした。

授業後には、マハボディ寺院をはじめスジャータ村等に連れていっていただき、ブッダガヤの文化に触れることができました。

最終日は、デリーに置かれる立命館大学インドオフィスの所長先生にお世話になりました。日印の事を伝え、昼・夕食ともに最後の本場インド料理を美味しくいただきました。

そして、深夜の飛行機に乗り、夜帰国しました。

人・食・言葉・文化・習慣など、日本と異なるものにたくさん不安はありました。しかしながら、現地到着後は、現地の人に支えていただきながら、充実した時間を過ごすことができました。

私はこの旅で、これまで学んできた環境がいかに恵まれているかということを強く感じました。ビハール州はインドで最も貧しい州です。この環境の中でも、子供たちは将来の目標を明確に持っています。これは日本の教育が学ぶ点でもあると考えました。また、珠算教育の持つ効用をしっかりと理解してくださり、カトロア・ギャンカップ校では毎日30分も取り組んでくれています。

単なる計算用具ではなく、教育の柱として世界各国が導入している「そろばん」を、選手としての技能向上はもちろんのこと、このような普及活動にも私たち若者が行動をしていかなければならないとも思いました。一歩踏み出してみることで、新たな道を切り開くきっかけにもなり得ます。部員をはじめ、多くの方々に伝え、知ってもらい、継続的な活動として行なっていければと考えています。

【スケジュール】
9月8日～16日

8日
- 関西国際空港発
- 上海乗り換え

9日
- 深夜ガンディー国際空港着、デリー泊
- インド門
- タ方の寝台車に乗車

10日
- 早朝ガヤ駅着
- カトロア校初日
- フラッシュ暗算、見取算
- マハボディ寺院

11日
- カトロア校2日目
- かけ算、わり算初歩指導
- スジャータ村

12日
- ギャンカップ校初日
- フラッシュ暗算、見取算
- ブッダガヤ散策

13日
- ギャンカップ校2日目
- かけ算、わり算、初歩指導
- 夜停電（※電力会社のストライキによる）

14日
- カトロア校で先生方の指導（到達度試験の導入案提示）
- 寝台車に乗車

15日
- デリー駅着
- 立命館大学インドオフィス所長との懇談
- クトゥブミナール

16日
- 深夜ガンディー国際空港発、上海乗り換え
- 関西国際空港着
- 無事帰国